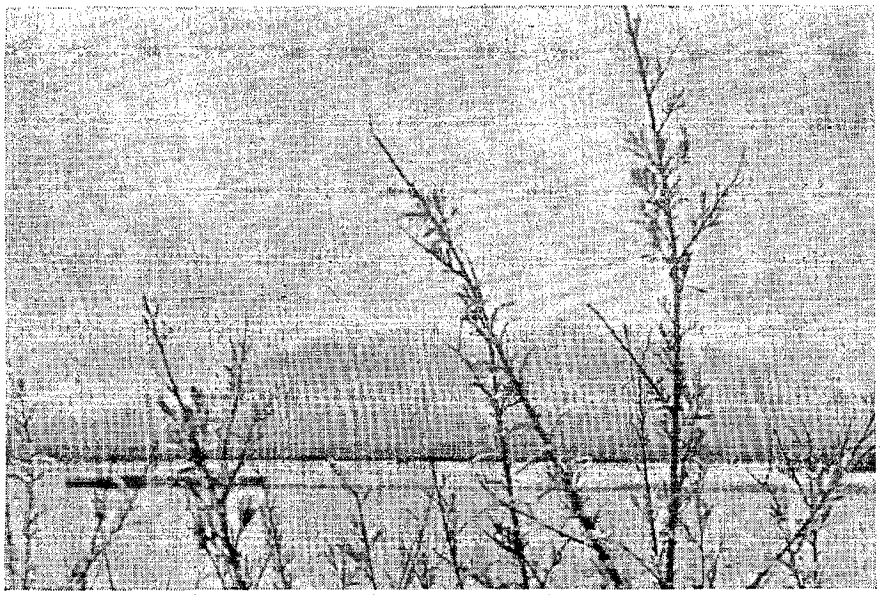


役場たより

発行
潟東村役場
印刷所
北洋印刷株式会社

新春放談

村長　小泉　充

明けましておめでとうございます。

「不況」インフレとデフレが同居して経済界は不況、一般大衆は物価高に泣いた、これが昭和四十年でした。

年明けて今年は昭和四十一年どうか今年は活気溢れる年にしたいものです。

処でどうでしょう、今年の景気は、政府は苦しまぎれと思われる、いろいろな手を打っておるようですが財界首脳部が言っている言葉は随分矛盾があると思われませんか。私も若い頃（まだ若いじゃないか、こんな言葉は君軽薄だよ、いや、いや、まって下さい私も馬齢を数えて四十三才となりました。）マルクスの資本論に熱中したことがありますが、今日の経済界はまるでマルクスの指摘したみちを歩んでいるではありませんか。

彼は資本論の中で、

資本主義社会が一定の発展段階に達すると、資本の蓄積とならんで集中という現象がめだってあらわれてきます。蓄積は剰余価値の中からの積立を意味するわけですから、一つの社会の資本の総額はそれだけ増加します。然し集中のほうは資本が多数者の手から少数者の手に寄せ集められるだけですから、社会全体の資本の大きさは変化しません。それはたんに資本の配分上の変化を意味するにすぎないのです。

資本主義社会においては、資本家たちの間に、ものすごい競争戦が行なわれます。この競争戦において相手をたおす唯一の武器は商品の価格を安くするということです。あたえられた条件のもとで商品の値段を安くするには労働の生産力を高めるよりほかに手がありません。そしてこの生産力は生産の規模が大きければ大きいほど有利に展開してきます。そこで資本家は常に中小資本家をうち破り、その資本を手中におさめます。

さらに資本は、銀行等のような信用機関を通じて産業資本家の手に集中してきます。銀行は全社会に散らばっている零細な資金を、全国的にはりめぐらした網の目によってすくいあげ、それを巨大な資金として産業資本家に貸付けます。産業資本家はこの金融網を新兵器として中小資本のせん滅戦にのりだしてきます。

資本の集中はさらに合同と合併という方法によっても行なわれます。合同というのは、資本家相互の合意にもとづいて平和的に資本を結合することを意味します。合併というのは、ある資本家が他の資本家の資本をうちくだいて乗っとることです。

資本主義が進展するにつれてカルテル・トラストなどという企業の連合体、あるいは合同体があらわれ、社会の資本はしだいに巨大財閥の手に集中されるようになりました。

今から百年以上も前に書いたこのマルクスの資本論、共産主義者のバイブルだと言われ、今日の如き修正資本主義の時代には何等通用しない前近代的な理論であると一笑してきた現在の資本家は一体どうお考えになっているのでしょうか。労働組合が強くなり、ユニオンショップも確立され、かつてのような我儘のきかなくなった彼等にどこに反省のいろが見えるでしょうか、景気の好いときは労働者に媚をうり、売れるからといって無計画な設備投資をやり、売れなくなったからといって政府の施策がなっちょらんと責任を転嫁する。あげくの涯てが人員整理以外にこの危機を乗り切る方法がないと、のたまわく、

少し気骨のある政治家がこのような事態になるを憂えて政策を打ち出せば経済界に対する不当なる干渉だ、自由主義経済を何んと心得る、と強談判、これじゃ戦前の資本家以上に、労働組合に噛みつかれるのも無理はない。一体設備の近代化を進めた要因はどこにあったか、口の悪い評論家に言わせれば、「人を使えば必ず労働攻勢がある、だから物言わぬ機械を導入し近代化することによってこの難から逃れるためにやったのさ」オートメーションからワンマンコントロールへと機械化は驚くべき進歩をしている。

資本家の頭も今少し機械の進歩に負けないように進歩してもらいたい。使う人よりは使われる人が多いのだから。

草葉のかげでマルクスに笑われない時代の一日も早く来る日を望みたいものです。

資本家だけではない！政治家も同罪だということも忘れてはならない。

米多収穫共進会及び日本一うまい米づくり優良者表彰

経済土木課

昭和四十年度米多収穫共進会及び日本一うまい米づくり優良者の表彰式を去る十一月二十日挙行致しました。

この日表彰された方々は左の通りです。

第一部（越路、早生の部）

一等賞　田辺弋夫　称名
二等賞　山岸三郎　大原
〃　大谷繁　井随
三等賞　坂井勇之助　横戸
〃　尾碁行英　茨島
〃　尾碁七司　茨島
〃　西村初祝（もちの部）

第二部（日本海、）

一等賞　山岸鶴一　大原
二等賞　遠藤三津美　横戸
三等賞　加藤利英　大原
日本一うまい米づくり優良者
福田輝雄　称名　杉山七一郎　南
金水吉衛　番屋　斎藤治太郎　番屋
金子仙蔵　国見　竹内平次郎　大原
金永義雄　番屋　山口一郎　井随
笠原徳次五之上　笠巻健一　茨島
山口倉八郎　井随　渡辺獅武　茨島
佐々木新二　今井　長沼宇八郎　称名
竹内竹一　番屋

尚多収穫共進会の選考については、十月号の「役場たより」のとおりですが、うまい米づくり優良者については、第一選考を各農協より実施してもらいそれを基にして村、各農協、食糧事務所四ツ合出張所、普及所、農業委員会、議会産業土木委員会、共済組合で組織する産米改良組合で次の事項を鑑み審議の上十五名を決定しました。

一、米出荷数量が一〇〇俵以上の農家を対象とした。
二、奨励品種普及率が七七・九％以上の栽培農家であること。（村平均率）
三、検米成績で三等基準割合のすべぐれている農家。
四、その他予約完納率等も鑑み審査しました。

終りに昨年は春先以来の異常気象で気苦労の多い年でしたが、農家の皆様の努力で米出荷数量も向上しましたことは御同慶にたえません。今年も農家各位の益々の御精進を期待致します。

〝道路の除雪について〟

経済土木課

北陸地方三ヶ月予報によれば一時的に降雪量の多くなる時期があるとのことですが、本年度も万一の場合に備え、ブルドーザーを主体とした除雪を例年の計画により実施する所存ですので左のことについて村民各位の御協力をお願いいたします。

記

一、道路敷上に障害物があります。と雪の下になり見えませんので除雪の際、邪魔になり壊したりする危険がありますので取り去っておいて下さい。
二、万一大雪となった場合緊急を要する路線から除雪を行なうことになっておりますが、特に狭い道路等に入りますと機械除雪と併せ、皆様の御協力を頂かなければなりませんので何分よろしくお願いいたします。

犯罪や事故のない明るい正月を

年の暮れともなると、人、物、金の動きがあわただしくなり、年始には心のゆるみやすい時期です。こんな「スキ」を狙う犯罪や事故が毎年多く発生します。

警察では、管内のみなさんが安心してよい年を迎えられ、楽しい正月ができるよう全力をあげて防犯活動を強化します。みなさんもまず自分の家の防犯診断、火災予防、夜廻りなどを実行し、次のことに注意して犯罪や事故を防いでください。

○盗難の予防

一、家庭における盗難予防は、戸締りが第一です。どろぼうに入られた八〇％は戸締を忘れたのと不完全な戸締が原因です。留守にするときは、戸締を完全にするとともに、隣り近所に留守中を頼んで出かけること。
二、スリ、ひったくりなどの犯罪は買物など、にぎわう場所に多く発生する事件です。財布や、貴重品は肌身にしっかりづけておくこと。

○交通三悪の追放

一、寒さからのあがり酒、忘年会、新年会などで酒を飲む機会が多くなるが車を運転するときは絶対に酒をのまないこと。
二、年末には、忙しさにまぎれて、スピード違反をしがちです。スピードの出しすぎは事故のもとですから絶対に無理な運転はしないこと。

日まして寒くなります。どこでもコタツ、ストーブと火を使う場所と機会が多く、これにつれて火災の発生も多くなります。火を使う設備、器具の取扱いに注意し、手入れをよくして火災のおきないようにして下さい。

○早期届出を

もしも、被害にかかったら現場はそのままにして、早く届出することが早期解決の近道です。

（巻警察署）

献血運動に協力しましょう

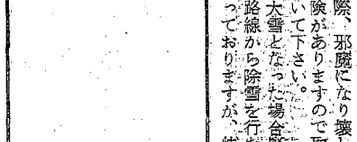
日本赤十字中央血液センター移動採血車が渥東村にもまいります。皆様もすでにお聞き及びのことと思いますが、渥東村も現代社会の先端をゆくわけです。そこで少し献血、輸血の話をしたいと思います。

新年も明けていよいよ四十一年の春が切って落され、馬年の足音も年寄りも大きく息を吸い胸を張って……しかし人間生身の体、無事を願い注意に注意を重ねても不慮の事故といいつどんなことが起り得るかも知れません。そこで現代社会にはいろいろな保険や制度ができ、お互に不幸を助け合うよう考えられ作られております。

其の一つに傷害事故の致命輸血があります。いまのところ地方自治体と日赤が協力して、各地方ごとに献血センターをつくり県内で使う血液は県内でまかなおうということで赤十字の協力で移動採血車をフルに使って献血を集めその結果、非常にうまくいっています。輸血は外科手術だけでなく一般臨床医学にも非常に多く使われ、かつて以前の三百五十倍だということです。こんな話を御存知でしょう。たまたま日本の一樹樹病者に刺傷された駐日米大使のライシャワー氏が日本で治療を受けたさい、完血輸血により血清肝炎にかかったということ。献血はまだはじまったばかりですが日本の場合は、社会の底辺で生活する人たちが血を売って生活し、それによって血液の供給が行なわれていました。まだまだ日本人の売血はだえません。これからはもっともっと輸血問題に対し正しい意味の血液の供給が幅広く、そしてたゆまずに行なわれなければならないと思います。どうぞ進んでより幸せな社会のため、献血に参加下さいますよう、日時は後日部落に連絡致します。青年団、婦人会、若妻会の皆様に特に認識していただきたく希望致します。採血については血圧、血液型、肝機能検査等の検査をします。時間は一人三十分位ですみます。今年成人の皆さん、このお祝いと共に社会人の第一歩として記念の献血はいかがですか。意義あるものに思われませんか。成人者健康診査と併せて実施の予定です。

（保健婦　中川）

年賀新年謹



1966年元旦

役場
〃　村長　小泉充
〃　助役　小林貫以智
〃　収入役　岡本卯之一
〃　総務課長　大沼和雄
〃　〃　佐藤貞子
〃　〃　渡辺務
〃　〃　坂井平
〃　〃　角藤孝志
〃　〃　佐藤平
〃　〃　吉孫
〃　〃　島田テイ子
〃　〃　金永堅次郎
〃　会計室　小松ヤス子
〃　税務課長　杉山文明
〃　〃　中沢司郎
〃　税務係　福島允
〃　〃　山保芳夫
〃　〃　長谷川米征
〃　〃　池浦公彦
〃　〃　小林ヨシ
〃　〃　藤田忠明
〃　経済土木課長　渡辺平二
〃　経済土木係　揖斐勇
〃　〃　星野志乃夫
〃　厚生課長　井上亀乃男
〃　厚生係　湯下坂忠彦
〃　〃　長沼博明
〃　〃　竹内律子
〃　〃　大原政行
〃　〃　山岸幸成
〃　〃　小林章一
〃　〃　中川洋子
〃　〃　保健婦　杉浦君子
議会
〃　事務局長　渡辺博
〃　〃（兼務）　坂井烝
〃　農業委員会事務局長　小林重成
〃　〃　長沼六郎
〃　〃　深沢時雄
〃　〃　斎藤百合子
教育委員会
〃　教育長　笹川謙録
〃　係　笹崎功
〃　栄養士　土田礼子
公民館
〃　公民館長　南波又平
〃　係　三富四郎
〃　用務員　三富清松
〃　児童館長　加藤三治
〃　係　福島謙録
〃　〃　渡辺英子
〃　〃　六美子
〃　児童館用務員　小林藤吉郎
〃　学校用務員　水口井ム
〃　〃　竹内林一
〃　〃　佐々木陸三郎
〃　道路看守人　穂刈祐市
〃　〃　佐藤鎮夫
〃　〃　山徳太郎
渥東村議会
議会議長　星野治助
副議長　西村信吾
議員　小飯田与平
〃　高嶋繁世
〃　丸山平一郎
〃　下坂彦太郎
〃　小林治太郎
〃　小飯田嘉三郎
〃　加藤俊夫
〃　金永義雄
〃　飯島嘉郎
〃　桑原治
〃　竹内佐七
〃　渡辺寅平
〃　成沢悦次
〃　渡辺敏之
〃　田辺熊太郎
〃　武田武
〃　遠藤合一
〃　小幡本藤助
〃　林九淵太
〃　伊藤治
〃　遠藤合一
総務関係
総代　井隨方
〃　横戸石井末三郎
〃　水沢新田本太三治
〃　遠藤岡本正雄
〃　卯八郎受丸山勝次
〃　五之上大橋誠一
〃　番屋茨島
〃　斎藤隆次郎
〃　大原
〃　遠藤岩治
監査委員
〃　渡辺乙蔵
〃　丸井末三郎
〃　高橋誠一
〃　武田武
〃　成沢悦次
〃　渡辺敏之
〃　渡辺寅平
〃　竹内佐七
〃　桑原治
〃　飯島嘉郎
〃　笹崎幸雄
〃　第一分団長　高橋裕
〃　副分団長　新木荘一
〃　〃　渡辺惣一郎
〃　第二分団長　青柳二郎
〃　副分団長　加藤利英
〃　〃　田中勇吉
〃　第三分団長　青柳安一
〃　副分団長　丸山勝
〃　〃　小林文雄
〃　第四分団長　田辺弘
〃　副分団長　石井丙三郎
〃　第五分団長　大谷政夫
〃　副分団長　田原達治
〃　〃　斎藤毅
〃　第六分団長　吉崎忠左久
〃　副分団長　本間義彦
〃　〃　小山惣南
〃　第七分団長　岡本温
〃　副分団長　坂井清
〃　〃　星野幸作
〃　第八分団長　杉山斉
〃　副分団長　長谷川優
〃　〃　尾碁正一男
〃　第九分団長　福田幸一郎
〃　副分団長　小島四郎
〃　〃　鈴木昭
〃　〃　相田咲
〃　第十分団長　小林行
〃　副分団長　山際雄
〃　〃　吉田隆司
〃　第十一分団長　高島信英
〃　副分団長　穂刈国男
〃　〃　長沼正弘
〃　ラッパ長　南波惣一
〃　副長　黒川原喜一
〃　消防書記　佐藤孝志
〃　消防団長　毛島一郎
〃　副団長　山口倉八郎
〃　樋口恒夫
〃　大関守
〃　旗手　小林貫以智
税務関係
固定資産評価員　渡辺務
〃　固定資産評価審査委員会
委員　湯川庄治
〃　大関耐介
〃　深沢外吉
耕地調査員
〃　井隨　滝沢勝吾
〃　〃　青木荘一
〃　〃　新木高治
〃　〃　小林八郎
〃　〃　島方吉次郎
〃　〃　小林文雄
〃　〃　横戸石井仁起知
〃　〃　吉崎二三郎
〃　〃　坂井松
〃　〃　杉山豊
〃　〃　本間咲衛
〃　〃　岡本庄平
〃　〃　水沢渡辺利帰知
〃　〃　遠藤太三治
〃　〃　星野秀治
〃　〃　広作
〃　〃　大谷権作
〃　〃　南波又市
〃　〃　卯八郎受丸山勝次
〃　〃　五之上大谷権作
〃　〃　笹川正四郎
〃　〃　成沢悦次
〃　〃　竹内平次郎
〃　〃　大原
〃　〃　青柳義雄
〃　〃　金永二郎
〃　〃　番屋茨島
〃　〃　称名
〃　〃　今井平松勝
〃　〃　田辺初太郎
〃　〃　藤次郎
〃　〃　佐藤重吉
〃　〃　沼徳治郎
〃　〃　長沼
〃　〃　国見渡辺与三郎
〃　〃　大曽根甲田中庄一郎
〃　〃　南波又市杉山七一郎
経済土木関係
農業機造改善事業協議会
会長　星野治助
会長代理　冨井実
委員　西村信吾
〃　金永義雄
〃　高橋裕
〃　渡辺敏之
〃　尾碁長三郎
〃　渡辺利帰知

渡辺幸一　山口一
荒木惣三郎　渡辺寅平
武田金六　広木東西
星野三郎　山際力雄
星野五郎　広木儀平
竹内多計志　金子国光
斎藤テジ　山口勝
西村欣策　田中正雄
小林昭平

農家組合長

井隨桑原友治　稲沢久市
赤塚熊市　大谷善八
小林謙太郎
島方　阿部民治郎　小林熊一
小林源一
横戸　石井久米八　広木精七
小林清作　小山与一
小山藤吾
水沢新田揖斐賢治郎　藤田昭一
渡辺良
遠藤　小林重作　武田六三男
渡辺作治　星野多一郎
小林三一
卯八郎受杉村重治郎　田原惣一
五之上佐々木宗作　長沼俊栄
吉川弘
児玉省三郎
大原　笹崎与市郎
番屋　金永義雄
茨島長沼徳治郎
称名丸山藤久一
今井小林誉一
国見斎藤清
大曽根甲吉田秀夫
南星野喜一郎

農業近代化資金制度推進協議会委員

冨井実　小林重成
山口一　播本恭平
荒木惣三郎　尾碁高治
西村欣策　渡辺敏之
渡辺平二　揖斐勇
下坂忠彦

種子更新協議会

会長　小泉充
副会長　荒木惣三郎
〃　渡辺幸一

産米改良組合

理事　吉田仙一
監事　渡辺敏之
参与　西村欣策

組合長　小泉充
副組合長　荒木惣三郎
〃　渡辺幸一
評議員　吉田仙一
〃　渡辺敏之
〃　笹崎仁吉
〃　冨井実
監事　四ツ合農協代表監事
〃　大原農協代表監事
参与　普及員
〃　検査官

地方産業育成資金融資委員会

委員長　広木清一郎
委員　第四銀行白根支店長
小泉充
山口一　飯島嘉一郎
中沢一郎　宮島徳治

厚生関係

国民健康保険運営協議会委員
会長　田辺熊太郎
委員　西村信吾
荒木惣三郎　渡辺幸一
星野堅太郎　飯島多喜一
高橋美代　小林十八三
竹内正吾　斎藤菊二郎
桑原進　栄森貴

民生（児童）委員

吉川弘　渡辺又一郎
阿部民治郎　揖斐賢治郎
小林スイノ　小林金一郎
渡辺利帰知　中山テイ
黒川藤吉　小林和平
山岸二三

社会福祉協議会役員

会長　小泉充
副会長　吉川弘
監事　石井末三郎
〃　西村信吾
理事　赤塚恕
杉山豊咲　長沼長作
笹崎秀治　小林九二衛
渡辺利帰知　丸山久八
小林金一郎　斎藤隆次郎
評議員
渡辺乙蔵　丸山勝次
田中正雄　岡本太三治
相田猶吉　高橋誠一
大関耐介　大原葆
小林厳次　青柳正喜
星野堅太郎　渡辺与三郎
星野隆知勇　渡辺又一郎
阿部民治郎　揖斐賢治郎
小林スイノ　中山テイ
黒川藤吉　山岸二三
小林和平

国民年金委員

赤塚仁四郎
藤田精造
大越大太郎
竹内隆策　大原葆
星野堅太郎　石井末三郎
佐藤佐吉　小林厳次
山岸二三

衛生委員

赤塚仁四郎
石井テンコ
坂井トク
西村富太郎
長沼長作
星野太郎
佐藤子之治
小林秀一
竹内平太郎　田原喜三郎
黒川清治郎　丸山久八
勝山初太郎　吉田キク
星野ハナ　大屋ヨシ

教育委員会関係

教育委員会
委員長　平松武雄
委員　古川滝次郎
〃　池田栄作
〃　丸山佐吉
教育長　笹川謙録

渭東村社会教育委員兼公民館運営審議会委員

委員長　福島正貢
副委員長　吉川弘
委員
星野治助　西村信吾
飯島嘉一郎　金永義雄
山口靴　高橋美代
渡辺ワカ　中村周一
八子誠四郎　長谷川安子
星野五郎　笹崎秀治
中山テイ　白井晶
斎藤テジ　長谷川庄三
金子国光　斎藤清

農業委員会関係

農業委員会委員
会長　冨井実
会長代理　尾碁長三郎
委員
五十嵐五郎　荒木惣三郎
星野広作　小林吉次郎
野沢清蔵　竹内平次郎
高嶋繁世　新木荘一
高橋裕　田原惣一
長沼宇八郎　勝山初太郎
渡辺利帰知　渡辺幸一
小林秀一　斎藤清
冨井正　渡辺寅平
斎藤懸信　渡辺好雄

鎧潟干拓対策委員

会長　小泉充
副会長　星野治助
〃　星野三郎
委員　西村信吾
〃　飯島嘉一郎
〃　渡辺敏之
〃　金永義雄
〃　下坂彦太郎
〃　武田武
〃　小林治太郎
〃　冨井実
〃　勝山初太郎
〃　渡辺乙蔵
〃　丸山勝次
〃　石井末三郎
〃　田中正雄
〃　岡本太三治
〃　相田猶吉
〃　高橋誠一
〃　大関耐介
〃　斎藤隆次郎
〃　大原葆
〃　小林厳次
〃　渡辺与三郎
〃　星野堅太郎
〃　星野隆知勇
〃　武田金六
〃　山口一
〃　荒木惣三郎
〃　渡辺国松
〃　渡辺好雄
〃　吉川熊一
〃　小林藤次

鎧潟干拓対策実行委員

小泉充　星野治助
星野三郎　西村信吾
飯島嘉一郎　小林治太郎
冨井実　岡本太三治
小林厳次　渡辺与三郎
武田金六　山口一
渡辺国松　吉川熊一

農家労働力対策事業就業相談連絡員

連絡員　新木荘一
〃　小林吉次郎
〃　野沢清蔵
〃　渡辺利帰知
〃　星野広作
〃　冨井正
〃　竹内平次郎
〃　尾碁長三郎
〃　勝山初太郎
〃　斎藤清